

令和 4 年 11 月 21 日

東員町議会 教育民生常任委員会

委員長 川瀬 孝代 様

東員町議会

広田 久男

研 修 報 告 書

研修期間	令和 4 年 11 月 9 日（水） ～ 令和 4 年 11 月 10 日（木）【2 日間】
研修（視察）先	9 日（水）長野県南木曽町 妻籠町並み交流センター 10 日（木）長野県箕輪町役場
目的（テーマ等）	9 日（水）・小学校統廃合に係る跡地利用について ・人口減少対策について 10 日（木）・地球温暖化対策について
資料添付の有無	無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページに記入すること。

〔氏名：広田久男〕

研修概要、内容、所感

I. 9 日(水)長野県南木曽町

1. 研修概要

(テーマ 1) 小学校統廃合に係る跡地利用について

- ・ 本年(R4 年)4 月に開館した長野県南木曽町の「妻籠町並み交流センター」は、人口減少により廃校となった旧妻籠小学校の跡地を、地域づくりの拠点として建設されたものである。
ちなみに、南木曽町の人口は H2(1990) 年=6422 人が、R2(2020) 年=3915 人まで減少している。と、(教育長)向井氏の説明を受けた。
- ・ 南木曽町妻籠地区は江戸時代の街並みを残した有名な観光地で、何度か旅行で来たことがあり、知らない地ではない。
しかし、えっ！4000 人に満たない南木曽町の現状を知ると・・・、個人的な感想としては観光と住民力で存続するしかないと感じた。
- ・ 木曽ヒノキやカラマツなど地元木材が使用された木造平屋建ての会議室棟とバスケットコート 1 面くらいある多目的ホール棟の 2 棟が併設されている。
また、グラウンド(未整備)もあるのでいろいろな屋外イベントなどが開催できると感じた。

(テーマ 2) 人口減少対策について

- ・ 「もっと元気に戦略室」職員の片山氏と西尾氏に説明を受けた。
- ・ 名古屋外国語大学(以下名古屋外大と称す)とのコラボで地域創生の体験学習を南木曽町で行っている。名古屋外大生が編集した移住促進のパンフレットの紹介を受けた。また、R4 年度は地域おこし協力隊に名古屋外大より初めて 1 名が来てもらっている、とのことであった。
- ・ また、廃校中学校舎を通信制の高等学校(緑誠蘭高等学校)として再利用している説明を受けた。地域づくり(人口減少対策)にどのような連携ができるかは、まだ開校 3 年目のようなので、これからの事例に期待したい。
- ・ その他、婚活支援、子ども子育て支援、空き家活用など一通りの説明を受けた。

2. 研修所感

- ・ 南木曽町の人口推移は、2050 年には 2000 人を切り、2060 年には 1330 人になり消滅するであろうと推計されている。
そのような状況下で、「住んでよかった、暮らしてよかった、住むなら南木曽町」をキャッチフレーズに地方創生総合戦略を策定し「もっと元気に戦略室」を設けて果敢に挑んでいる。対応いただいた方々の人柄から将来に希望を感じた。
- ・ 南木曽町の住民・職員・議員が一丸となり、町の創生に挑戦する取り組みに期待したい。

Ⅱ. 10 日(木)長野県箕輪町

1. 研修概要

(テーマ)地球温暖化対策について

- ・長野県箕輪町では、本年(R4 年)7 月に地球温暖化対策実行計画を、家庭・事業者・行政(公共施設)に分けてアクションプランを明確化し施行、それと併せて、ゼロカーボンシティ宣言を行っている。
さらに、9 月には環境省の令和4 年度 地域脱炭素移行・再エネ推進交付金事業の内示を受理している。
一方、本町ではゼロカーボンシティ宣言は本年(R4 年)9 月に行っているが、どのように取り組むかの計画策定はこれからである。
- ・箕輪町のゼロカーボン推進構想について、担当する河合室長より説明を受けた。
注目すべき点は、公共施設と公用車などの2030 年度CO2 削減目標△60%に対するアクションプランとシナリオがしっかりと出来ていることである。
(国の交付金以外に)町の負担額は約9 億2 千万円必要とするが、光熱費などで約4 千万円/年の削減効果が見込める。つまり、概ね24 年で町の負担額は回収できるとまで試算している。

2. 研修所感

- ・箕輪町の人口規模はほぼ東員町と同じくらいであり、公共施設の地球温暖化対策は参考になるものであった。
- ・少なくとも、これから建設する東員第一中学校は脱炭素が実現してなければ「東員町のゼロカーボンシティ宣言」はニセモノになると判断した。
自分たちも本気で取り組まなければならない、と感じた。

以上